東海社会学会シンポジウム

東海社会学会第 8 回大会シンポジウムが 7 月 4 日午後、東海学園大学・名古屋キャンパスで行われた。テーマは「『まち』と『縁』の創造−人口減少社会を視野に入れて」である。興味深いテーマなので参加して、じっくり耳を傾けた。

シンポジウムの趣旨。「近年、名古屋都市圏では、リニア中央新幹線の開通を見据えた名古屋駅前、およびささしま地区等の再開発などが行われており、都市の再編が大きな注目を集めている。その一方で、『人口減少社会』の到来や都市のコンパクト化、また同時に、外国籍の人びとの流入も指摘され、行政、企業、NPO と連携しての取り組みの必要性が叫ばれている。

本シンポジウムでは、このような名古屋の都市部における、人びとの『まち』と『縁』を創出する実践に注目する。『まち』は空間を、『縁』は社会的ネットワークを、それぞれ意味している。この地域では、古くからの『縁』が強く存在する一方で、これらとは異なる新たなかたちの『縁』が創り出されてきた。二つの『縁』に注目しつつ、都市部に住む人びとによる豊かな実践から、『まち』と『縁』がどのように創り出されてきたのか、これらを成立させる条件は何かを探ってみたい。」

司会は山根真理(愛知教育大)、シンポジストと発言テーマは次のとおり。丸山政子(NPO 法人まめっこ)「子どもの笑顔がまちの未来」、松下繁行(南医療生協)「一人の困った！を暮らしの中で—南医療生協のまちつくり みんなちがってみんないい 命輝くまちつくり」、阿部亮吾(愛知教育大)「地域における多文化共生のまちづくり—成果と課題」である。問題提起者は丸山真央(滋賀県立大)、指定討論者は名古屋市の岩城正光副市長である。

3 人の報告は、それぞれ名古屋での活動・実践記録をリアルに語り、参考になることが多かった。丸山報告では、子育て経験を踏まえ、「つながる支援・つなげる支援」の中で、とりわけ商店街とのつながりが面白かった。松下報告では、「男塾つくりと、支えあいシートによる活動」、「つぶやきからかたちへ」と展開する過程が興味深かかった。「地域に入ればただのおっさんだわ けれど現役時代に培った技は惜しみなく出そう」という発言にも注目した。大都市比較を交えた、まちと縁の創造についての問題提起、行政の立場から 2011 年 3 月 11 日以降の変化を見据えた問題把握の重要性の指摘なども参考になった。

(2015 年 7 月 10 日)